

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 29	項目名	図書館図書ICタグ導入費			主要な施策の 成果 ページ	109	担当 部署	教育委員会事務局 図書館・南草津図書館
予算科目	会計	1	一般会計		総合計画 体系	分野	生涯学習・スポーツ	
	款	10	教育費			基本方針	生涯学習の振興	
	項	5	社会教育費			施策	生涯学習支援機能の充実	
	目	4	図書館費			当初予算における区分	(新規施策・拡大施策・重点施策・その他)	
事務事業	441	管理運営費		↑ 該当するものを○で囲んでください				

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	開館以来、広く市民に利用される図書館として、的確な図書館資料の収集と整備を図り、市民の多種多様なニーズに対応した情報提供を行い、市域における生涯学習支援施設としての充実を図ってきたが、図書館資料のより適正な管理と、利用者への迅速なサービスの提供を行うため、ICタグによる運用管理を導入するに至った。 現在県内公共図書館では彦根市がICタグを一部の蔵書のみ装備している。
事業の対象	・ 既存図書資料 (平成27年度～平成29年度) 図書館・南草津図書館が所蔵する資料 図書資料数 約468,000冊 (年間約156,000冊) ・ 新規購入図書資料 (平成27年度～平成29年度) 両館 約69,600冊 (年間約23,200冊)
事業の目的	利用者の利便性の向上と図書館利用サービスの拡大を目的とした図書館資料のICタグによる運用管理を行うために、所蔵資料のICタグ装備を実施する。
事業の内容(取り組み)	平成27年度～平成29年度の3か年で実施予定 両館の既存図書資料へのICタグの装備 約468,000冊 (年間約156,000冊) 両館の新規購入図書資料へのICタグの装備 約69,600冊 (年間約23,200冊) 平成30年10月に既図書館システムリースが満了となることから、新システム導入時において図書ICタグ管理による運用開始予定。

■ 予算・決算状況

内訳・詳細	当初予算の状況					決算の状況・実績				
	既所蔵分	新規購入分本館	新規購入分南館	合計	一般財源	既所蔵分	新規購入分本館	新規購入分南館	合計	一般財源
	@75円×156,000冊=11,700千円	@81円×12,600冊=1,021千円	@81円×10,600冊=859千円			@65円×172,476冊=11,211千円	@81円×10,037冊=813千円	@81円×10,539冊=854千円		
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
予算・決算額	13,580				13,580	12,878				12,878
前年度比										
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)	既所蔵分(既存図書資料)について、作業を効率よく進めることができ、当初予定冊数より上回る冊数作業となったが、一冊当たりの単価が入札で下がったため、決算額で減となった。また、新規購入分については、27年度に本館で購入した資料のうち、辞典等の高額資料の購入による平均単価が高くなり、冊数が減になった事と、CD等の視聴覚資料の装備を予定していたが、27年度の装備を見送ったため、当初購入予定冊数と比較し減となった。									
◆平成26年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	0				0	0				0

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	3	市民ニーズが高い	実施することで将来の利用者の利便性が向上する。
	3	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	4	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	実施は義務ではないが、ICタグの導入が図書館法で定める利用者サービスの拡大・向上につながる
	1	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	1	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	4	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	4	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	4	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	既存図書資料のICタグ装備の初期費用は、一時的に高額であるが、適正である。
	3	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	既存図書資料のICタグ装備を完了することで、ICタグによる運用・管理が実施できるため。
	4	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	4	当該年度の事業目的を達成できた	当初予定冊数を上回る達成状況であった。
	2	受益者の評価が得られている	
	2	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。3.およそ当てはまる。2.あまり当てはまらない。1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	平成27年度から平成29年度の3か年での図書資料のICタグ装備を完了後、平成30年度に新図書館システムで運用管理するため、当初計画に沿って平成27年度の作業を進めた結果、当初予定冊数を上回る達成となった。実際の実施効果は平成30年度の新システム運用後になる。					
事業に対する市民の意見、反応	図書館協議会での事業説明においては、利用者の利便性の向上につながるのとこと、大いに期待された。また、平成27年度における開館時間中のICタグ装備作業についても、利用者から理解・協力をいただき効率よく作業を進めることができた。					
事業の今後の課題、将来展望	図書資料のICタグ装備については、本事業を継続実施し完了する必要がある。また、平成30年度に新図書館システム導入によるICタグ管理を行うことで、複数冊の貸し出し・返却処理が一括処理でき、図書の適正な管理が行え、カウンター貸し出し時間の短縮が可能になることや、利用者自身による自動貸し出しも可能となり、職員のカウンター業務が効率化でき、利用者への図書に関する相談やレファレンス業務等、より専門的なサービスの提供を行うことができる。また、蔵書点検作業の効率化による蔵書点検期間の短縮が可能となり、開館日数の拡大を図ることができることから、今後、利用者の利便性の向上につながり、図書館利用サービスの拡大が可能となる。					
※平成28年度の 予算措置	予算額 (千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		13,600				13,600
	27年度比 積算根拠	100%				
		既所蔵分 @65円×184,800冊=12,012千円 新規購入分 本館 @81円×12,600冊=1,021千円 新規購入分 南館 @81円×7,000冊=567千円				

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。